

諫早市教育委員会議事録
令和４年第２回（２月定例）

令和4年第2回（2月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年2月17日（木）
15時00分～16時30分
- 2 場 所 諫早市役所 5階 大会議室
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 宮本 峻光
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 高柳 浩二
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 有谷 孝彦
生涯学習課長 諸岡 昌史
文化振興課長 川瀬 雄一
文化振興課主任 野澤 哲朗
- 5 議題
議案第2号 諫早市文化財の指定について
報告第1号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和3年度諫早市一般会計補正予算（第15号）」中、12款教育費））
報告第2号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和4年度諫早市一般会計予算」中、11款教育費及び8款経済交流費））

議事録署名人の指名

宮本委員と原田委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和4年第1回（1月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

教育長としてのこれまでの歩み

私のこの1年間の総括ということで、これまでの歩みと題して報告させていただく。就任の約束として「諫早市を子ども達の笑顔で元気にする、教育の力で活性化する」を掲げてきた。今年のテーマは「挑戦と創造」で、子ども達に夢を持たせたいと取り組んできた。現代の子ども達は、様々な情報に囲まれすぎていて、その中で自分の立ち位置を決めてしまったり、少しのチャレンジで失敗したら諦めてしまったりしている。もっと挑戦を続けたら叶うこともあるので、夢への挑戦を続けてほしい。そして新しく生み出す努力を続ける気概を持ってほしいということでのテーマであり、そのことを校長先生や教頭先生にもお願いしてきた。また、コロナウイルス感染症対策に追われてきた1年間でもあった。第5波のあと第6波が到来し、現在はオミクロン株が猛威をふるっている。若年層である児童生徒の罹患が多く、2校3学級の学級閉鎖もある。油断できない状況であるが、各学校の懸命な感染防止対策、毎朝の検温、給食での黙食、手洗い、消毒、換気、マスクの着用等を講じていただいております。特にマスクの着用と換気の徹底が有効のようである。

学習活動としては、音楽での合唱や家庭科の調理実習は実施して

いないが、運動会や修学旅行が実施できたことは、とても良かったと感じている。また、学びを止めない施策として授業は行っているが、部活動は県立学校の対策に準じて中止している。気掛かりなのは、体力の低下や再開した際のケガが懸念されることである。

ワクチン接種については、教職員の優先接種が行われて半年ほど経つため、3回目のワクチン接種には協力と配慮を校長会及び教頭会をお願いした。感染した児童生徒は出席停止、教職員は病気休暇の措置を取っている。また、同一学級での複数の児童生徒の感染があった場合は5日間の学級閉鎖の措置を取っており、これまで15校25学級で当該措置を行った。関連して、子ども達の孤立感や閉塞感が心配で、全国的には不登校の児童生徒が増えており、諫早市でも少しずつではあるが増えてきている。心のケアが必要であるということで、担任、養護教諭のほかに、心の教室相談員の充実、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、少年センターのバックアップをお願いしている。また、教職員のメンタルヘルスへの配慮も必要と考え、12月にビデオメッセージを全教職員に届けた。1月にも印刷物で激励メッセージを届けた。

図書館、公民館、市主催の研修会については、まん延防止等の措置によって、時間短縮や中止、延期等をしている。罹患者に対するいじめ、誹謗中傷がないように、あらゆる対策を講じ、人権教育・道徳教育の充実を図らなければならない。

2番目に、教育委員会組織及び課題の把握、活性化への仕掛けについて、一歩先を行く教育委員会となるよう、教育委員会事務局の全職員が当事者意識を持って課題を共有し、現場意識を持って業務に臨んでほしいと思っている。平和教育については8月9日だけでなく、日頃から平和教育を推進して充実させていきたい。学校訪問については、できる限り行っているが、まだ訪問していない学校もある。来年度は児童生徒や教職員と話す機会を持ちたい。

小学校の卒業証書については、中学校も導入しているA4版に変更した。

図書館については、4図書館と分室を訪問し、各職員の熱意を感じる有意義な会話ができた。今年度は諫早図書館開館20周年という区切りであり、たらみ図書館の移動図書館「本吉号」のリニューアル、図書除菌機の導入を行った。来年度は空調設備の改修工事を行う予定である。これからもデジタル化の一層の推進、レファレンスの充実、Wi-Fi環境整備等を行い、来館者の安心・安全・信頼のための手段を講じていきたい。

また、公民館へ訪問し、職員と課題の共有を行った。公民館の長

寿命化を図りながら、講座の充実をしていきたいが、コロナ禍の影響で中止を余儀なくされている。生涯学習はこれからも充実させていきたい。

成人式は安全対策を行い、来賓を制限して予定どおり行った。4月1日から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられるため、成人式は名称を変えることになるかと思うが、これまでどおり20歳で行う。

学校教育について4つの柱について、豊かな人間教育は特に大事にしていきたいことで、美しいものや自然に感動する心など柔らかな感性を持つ子どもの育成、心優しくたくましい諫早っ子の育成を図りたい。次に、確かな学力の向上には学校を上げて取り組まれている。思考力・判断力・表現力の育成のため授業が大事で、わかる授業をするためには、先生方が教材研究をしなければならない。その時間を生み出すためには働き方改革が必要である。GIGAスクールの推進、大型テレビや電子教科書を効果的に使った授業が想像以上に取り入れられて行われている。モバイルルーターの貸し出しができるようになったため、ICTの家庭での利活用をめざして6月頃から開始していく予定である。最後に働き方改革、ようやくできた「諫早版働き方改革」を4月から本格実施していきたい。3月頃に保護者へ文書を配布して理解を求めたい。部活動の在り方が1番問題になるかと思うが、この働き方改革を進めていかなければ、今後優秀な人材が教職員を志望してこないと思われるため、不転の決意を持って取り組みたい。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

不登校についてはネットやゲームから受ける影響が大きいと、相談員をしていたとき感じた。今の児童・生徒が、どれくらいSNSやゲームなどのインターネット環境と密接に関わっているかということや、心身に与える影響についての相談員への研修があると良いと思う。諫早市には生涯学習課を窓口に行っているメディア安全指導員がいらっしゃるの、研修を行ってもらいたいのではないかと考える。

[学校教育課長]

心の教室・ケア相談員への相談人数が小学校で637人、中学校で522人となっている。現在内容を分析中だが、ゲーム依存や昼夜逆転等の原因を究明して対応に生かしていきたい。

[委員]

働き方改革について具体的にどのようなことを行うのか。

[教育長]

学校の施錠や登校時の安全指導等を時間外勤務で行っているため、ご理解、ご了承をいただけるのであれば、用務員や地域の方々のご協力をお願いしたい。

[学校教育課長]

午前中 5 時間授業を行い時間短縮することが広がってきている。休み時間をこれまで 10 分だったのを 5 分にすることで、給食時間が 12 時半くらいにはなるが、下校時間を早めることが出来る。小栗小学校でも行われていて、その分研修や教材研究に時間を活用できているようである。

《議題》

議案第 2 号 諫早市文化財の指定について

文化振興課長 説明

《文化振興課長の説明に対する質問・意見》

質問・意見なし

《教育次長の報告》

- 1 令和 3 年度予算款別内訳について
- 2 令和 4 年度予算款別内訳について

《教育次長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《追加議題》

報告第 1 号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和 3 年度諫早市一般会計補正予算（第 15 号）」中、12 款教育費））

教育総務課長 説明

《教育総務課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

コロナ禍であるため、手洗い場を自動水栓にする予定はないのか。

[教育総務課長]

今回の補正予算で計上しているトイレの洋式化工事の中には、自動水栓に係る予算は入っていないが、現在は各学校において、各学校に配当している現計予算の中で対応してもらっている。

[委員]

コロナ禍において、手洗いは非常に重要なことであるため、自動水栓を希望する学校だけでなく、今課長がおっしゃった内容のことを各学校にもお知らせいただきたい。

[学校教育課長]

自動水栓ではないが、肘で操作できるレバー式の蛇口に取り替える学校が徐々に増えてきている。また、アナログ式ではあるが、手洗いの際、ひねった蛇口も同時に石鹼で洗い流すといった衛生指導も行っているところである。

[委員]

今回の補正予算では体育館のＬＥＤ化ということであるが、校舎のＬＥＤ化はどうなっているのか。

[教育総務課長]

学校の校舎、教室等のＬＥＤ化については着手していない状況であるが、今後、国の補助等を活用できる機会があれば進めていきたいと考えている。現状では、まだ具体的な計画等はない。

報告第２号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和４年度諫早市一般会計予算」中、１１款教育費及び８款経済交流費））

教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課長及び文化振興課長説明

《各課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

先ほど話題となった相談事業について。今、全国的に問題となっているのが、子ども達が相談する時点で、既に何かが起こってしまった後の困りごとに対してどう対処するかという相談が増えてきているということである。本来は、何かが起こる前、きっかけの段階

で相談し、そこに至らないように対処するというのが理想であるのだが、現実なかなか難しい。なぜ難しいのかというと、単純に、子ども達の相談相手となる相談員が少ないからである。相談員を増やすということは予算がかかることではあるが、何事か起こってからそれを正すという事後の時間や労力を考えれば安いものであり、そして何よりも子ども達が犠牲にならなくて済む。男子、女子ともに相談しやすい環境を作るため、各学校男女一組の相談員を配置することが理想であると考えているがいかがか。

[学校教育課長]

おっしゃるとおりである。現在20人の相談員が各学校を兼務しながら巡回している状況であり、子ども達が相談したいときに相談できないということもあると思われる。ただ、県が派遣するスクールカウンセラーとも協力しながら相談業務を実施しているところであり、また、相談員も待ちの姿勢ではなく、自ら学級を見て回り、子ども達の様子を覗くなど積極的に活動されている。令和2年度、小学校では相談室に来室した児童数が9,872人、実際に相談した児童数が1,164人であった。子ども達が相談に来やすい環境づくりなど、できる限りの努力をさせていただいている状況である。

[委員]

相談員をやっていた頃、昼休みに相談室を開放していたことがあったが、何気ない一言からクラスの雰囲気伝わってくることもあった。子ども達が気軽に相談できる環境づくりは非常に大事なことだと思う。

[委員]

予算が成立した後に人数を確保するのは難しいと思われるので、現在の相談員に、将来的に相談員を増やしたいと思っているが、今現在、ボランティアで相談員をやっていただけの方が周りにいないだろうかといった風に普段から声かけをし、実際そういった方達が増えてくると予算も確保しやすいのではないか。

[学校教育課長]

学校単独では限界もあり、現在は、学校支援会議、コミュニティスクール等の話も出てきているため、保護者、地域の方々の御協力を得ながら、子ども達を支えていこうという状況である。まずは実績を作ることが重要であると考えている。御助言ありがたく承る。

[委員]

文化財事業に関して、文化財を資源とした地域の活性化や、観光交流事業の拡大を推進すると説明があったが、観光資源という観点ももちろん必要だと思うが、諫早市の子ども達や教職員に91件も

ある文化財を実際に見学する体験があると良いと思う。そのような学習は郷土学習の中でどのような位置づけになっているのか。その郷土学習に学芸員が活用できることについて、学校現場への周知活動はどうしているのか。

[文化振興課長]

郷土学習の取材として活用できる出張学芸員については、校長研修会でお知らせしている。文化振興課だけでなく美術歴史館にも専門員がいるため、学校に出向いて活用してもらっている。

[委員]

給食費の管理事務について、公会計化に向けての準備は具体的にはどのようなことをしているのか。

[教育総務課長]

働き方改革にもつながることだが、給食費の管理事務が教員の負担になっている。給食費を市の公金として取り扱い、令和5年度からは、市が徴収するというかたちにしたい。令和4年度はその準備期間となる。

[委員]

給食について、諫早市はアレルギー対策に力を入れているが、現在も維持されているのか。

[総務課長]

8品目を対象としている。アレルギー対策が必要な児童・生徒は増えてきている。これからも続けていきたい。

[委員]

良い対策なので、しっかりアピールしてほしい。

[委員]

歴史博物館に展示してある「唐比のくり舟」についても、全国的に見ても珍しいと思うので、時代背景と合わせてストーリー性を持たせて、補足説明すると良いと思うが。

[文化振興課長]

諫早市にある「唐比のくり舟」は平安時代のものである。「くり舟」自体は縄文、弥生時代のものは多いが、平安時代のものは九州で10台ほどしかない。来年度から3か年、文化財保存活用計画として、これまで単体で紹介していたものを、時代背景に関連付けてストーリー性を持たせていきたいと考えている。市民にも市外にも発信していきたい。

[委員]

ぜひ面白いものを作っていただきたい。

[委員]

歴史博物館では、小・中美術展や科学展が行われ、その際には多くの保護者が子どもと一緒に来場する。それらに合わせて企画展を行うと良いと思う。

[委員]

欧米の美術館では、20人から30人の子ども達が1つの作品をじっくり見て、後で感想を言い合う授業を行っている。教室内で行う授業だけでなく、実際に見たり、経験したもので優れた授業を行っていくための教育の場を提供するのが博物館や美術館であると思う。

その他

教育総務課長

2月臨時教育委員会及び3月定例教育委員会の日程について説明

16時30分閉会